



未来に向けて、今できることを

大館市校長会 会長 米澤 幸男

今年度の教職員研究実践発表会では昨年より多い26の実践発表が行われました。その内容や校種は多岐にわたり、幼稚園から大学・関係機関まで幅広い実践が話し合われ、刺激と示唆を与えてくれました。よりよい教育をめざして実践、発表された方々の熱意に、また、発表に耳を傾け意見を述べてくださった参加者の皆さんに心より敬意を表します。

この実践発表会が行われる2日ほど前に、「おおだて子ども・地域元気づくり交流プロジェクト」の一環として11名の教職員と共に釜石市教育研究所研究発表大会に参加することができました。あの震災から2年、大変な痛手を受けながらも日常と変わらない教育活動を推し進める教師の姿がありました。また、仮設のプレハブ校舎で、冬休みにもかかわらず先生と一緒に学習している児童生徒の姿も垣間見ることができました。釜石市教育委員会の方のお話からは、どんな状況においても、目の前の子どもたちのために、今できることを実践しようとする気概を感じ、教員としての使命感を再確認させられました。

釜石市では、平成20年度に文部科学省の「防災教育支援モデル地域事業」に採択されて以来、市内の全小中学校で津波防災教育を推進してきました。子どもたちは津波による過去の悲惨な歴史や地域の地形の特徴を学び、実験による水流の脅威を体験してきました。そして、親子で一緒に地域に出て防災マップ作りをしながら、万一の時に備えてきました。自分の命を守るために「知識を学び、考え・判断し、行動に移す」ことができるように釜石市全体で組織的に教育を推進してきたことが「釜石の奇跡」と呼ばれるものにつながったのです。そして、このような体験から学んだことが語り継がれて歴史となり、釜石市をより安全な街へと変えて行くことになるのでしょうか。

さて、大館市では「ふるさとに根ざし、自立の気概をはぐくむ学校教育の創造」を推進目標に、各校においてふるさと・キャリア教育が展開されているところですが、このふるさと・キャリア教育の推進が釜石市の防災教育と同様、子どもたちに「知識と思考力・判断力・行動力」を身に付けさせ、また、地域での体験活動や人々との関わりから地域の活性化を醸成し、未来の大館を創り上げる源となっていくのではないかと思います。

各校の地域の特徴に応じたふるさと・キャリア教育の様々な活動を通じて、子どもたちが自分のふるさとの未来に思いを馳せ、自分たちに何ができるか、何をすべきかを考え、判断し行動できるようにすることが、今学校に要求されていることでしょう。

教職員研究実践発表会、釜石市教育研究所研究発表大会に参加して、学校間の或いは校種を超えた交流、地域との連携、教職員の発想や実践の学び合い、他の地域との交流等によって、大館の子どもたちにさらに力を付けなくてはと、あらためて感じさせられました。